

その他

国際センター サマースクール「徳島であおう」

本サマースクールは、(1) 海外の大学から参加する学生が、将来本学で交換留学生や正規外国人留学生として学んでもらうこと、(2) 徳島大学での学習・研究、ならびに徳島の文化について理解してもらうこと、また (3) 日本人と他国からの参加学生がお互いに出会い・知り合うことで、今後の国際化に向けた自らへの振り返りをうながすことを目的として実施した。

【日程および参加者】

期間： 2015 年 8 月 3 日（月）～8 月 13 日（木）※8 月 11 日（火）に修了式を行った。

参加人数：約 100 名

海外参加者：40 名

日本人学生・一般：のべ約 40 名

本学留学生：のべ約 20 名

【中国】	13 名
・北京航空航天大学	1 名
・大連理工大学	9 名
・吉林大学	3 名
【韓国】	1 名
・韓国海洋大学校	1 名
【インドネシア】	15 名
・ガジャマダ大学	6 名
・ハントゥーア大学	5 名
・Health College of STIKES AISYIAH	4 名
【台湾】	2 名
・国立台湾嘉義大学	2 名
【マレーシア】	5 名
・マレーシア国民大学	5 名
【スウェーデン】	4 名

・ルンド大学

4名

サマープログラム期間中の活動および日程は以下のとおり。

1日目：8月3日（月）		
15:30-	徳島駅集合＆ホテルチェックイン	
2日目：8月4日（火）		
10:30-11:00	開講式	日垂会館 2F 講義室
11:00-12:00	プログラム・オリエンテーション	
12:00-13:30	昼休み	
13:30-14:30	徳島・徳大紹介	
14:30-15:30	徳大生との交流	
16:30-17:50	徳島文化体験 人形浄瑠璃	けやきホール
19:00-21:00	サマープログラム合同交流会	阿波観光ホテル
3日目：8月5日（水）		
9:00-09:55	日本人学生サポーターとキャンパスツアー	常三島・蔵本キャンパス
10:00-11:30	研究室訪問	各研究室
11:30-12:50	日本人学生サポーターと学食体験	生協食堂
13:00-14:30	特別講義「Space Biological Experiments of Tokushima University with JAXA」 （二川健教授）	日垂会館 2F 講義室
15:00-17:00	日本文化体験 茶道・華道	日垂会館・しんくら会館
4日目：8月6日（木）		
10:30-12:00	徳島文化体験 新聞放送会館見学	新聞放送会館
12:00-14:30	昼休み	
14:30-15:15	日本人学生とのピア学習 （地方行政理解：県庁・県議会）	日垂会館 2F 講義室
15:15-15:30	県庁へ移動	
15:30-16:30	徳島文化体験 地方行政・組織理解および副知事・議長表敬訪問	徳島県庁
5日目：8月7日（金）		
9:00-11:00	徳島ビジネス体験（大塚製薬企業見学）	大塚製薬（オロナミンC・

		ポカリスエット工場、 能力開発研究所)
11:00-12:00	昼食	大塚製菓内食堂
13:00-14:30	徳島ビジネス体験（市岡製菓工場見学）	市岡製菓
15:00-17:00	ゆめタウンにて買い物・自由行動	ゆめタウン
6日目：8月8日（土）		
9:30-11:00	徳島文化体験 藍染め体験	藍の館
11:30-12:30	昼食	パワーシティ鳴門
13:00-15:00	徳島文化体験 渦の道	渦の道
15:30-16:30	徳島文化体験 霊山寺参拝	霊山寺
7日目：8月9日（日）		
	Free Day	
8日目：8月10日（月）		
9:00-10:00	オリエンテーション	日垂会館 2F 講義室
10:00-13:30	「徳島の魅力発見！」 徳島まち歩き	徳島市内
13:30-17:00	ワークショップ フォトマップ作成	日垂会館 2F 講義室
9日目：8月11日（火）		
10:00-13:30	振り返り&まとめ プレゼンテーション準備	日垂会館 2F 講義室
13:30-15:00	プレゼンテーション	
15:00-15:30	修了式	
16:00-17:30	フェアウェルパーティ	
10日目：8月12日（水）		
9:30	ホテルチェックアウト	ホテル
10:00-20:30	自由行動	徳島市内
21:00-23:00	バス移動（神戸市へ）	バス
23:00-23:00	ホテルチェックイン	神戸市内ホテル
11日目：8月13日（木）		
	ホテルチェックアウト・解散	神戸市

【本サマースクールの趣旨・特徴】

昨年度同様、今年度のサマープログラムでも（１）参加する学生が、将来本学で交換留学生や正規外国人留学生として学んでもらうことを第一義的な目的とし、その目的に向けて（２）徳島大学での学習・研究、ならびに徳島の文化について理解してもらう、また（３）本プログラムで日本人と他国からの参加学生がお互いに出会い・知り合うことで、今後の国際化に向けた自らへ振り返りをうながす、という方針で全体のプランニングを行った。工学部ならびに医歯薬系のサマープログラムが「大学院博士課程に入学する学生をリクルートする」ことを念頭に置いている一方で、本サマースクールは将来本学修士課程に入学する留学生（ならびに交換留学生として本学で短期間学ぶ学部学生）をターゲットとしており、まずは「本サマースクールに参加した学生が、4-5年後博士課程に入学する」こと、そして「徳島にまた来たいと思う」その気持ちを育むことを念頭にプログラムの企画を行った。

以下、本プログラムの内容に沿って、（１）研究室訪問に代表される徳島大学におけるアカデミックな活動に関する情報提供、（２）阿波踊りや茶道・邦楽体験などによる体験的文化学習、（３）日本人学生・地域住民との関わりを通じて、徳島・徳島大学への理解を深める交流を中心とした学習、（４）合同交流会を通じたネットワークの形成という４点を基に本サマープログラムにいてまとめることとする。

（１）徳島大学におけるアカデミックな活動に関する情報提供

「徳島大学におけるアカデミックな活動に関する情報提供」に関しては、国際センター教員による「徳島大学紹介」、常三島・蔵本地区での「研究室訪問」や「徳島大学紹介」を中心に内容を企画・立案した。本プログラムに参加する学生の専門分野は多岐にわたるものであり、歯学・栄養学・日本語学・経済学など実に様々な分野について興味・感心を持っている学生が参加していたことから、今回は、工学部、総合科学部、歯学部、医学部栄養学科に協力を依頼した。

参加者にとっては、現在進行している最先端の研究を直接見聞することができただけでなく、各部局で進行しているユニークな研究や教育活動について知ることができた点でも大きな刺激となったと考える。参加者が将来本学で再度学ぶためには、「何を学ぶことができるのか」といった学術分野に関する情報、「誰の下で学ぶことができるのか」といった指導教員に関する情報は非常に重要であり、今回の「徳島大学紹介」、「研究室訪問」ではこれらの情報を具体的に提供することができたと考える。

（２）徳島・日本の学びの提供

今回のプログラムでは、地域・学生サポーターによる茶道や邦楽体験、藍染め、大塚製薬の工場見学、徳島市での阿波踊りの見学に加え、阿波人形浄瑠璃に触れ・学ぶ

機会も提供したことから、参加者には非常に好評だった。特に、今回は阿波人形浄瑠璃に関する体験学習を、共通教育「日本事情」を受講している留学生が中心となって計画・準備し、授業と連携する形で同体験学習を展開したこと、また、共通教育「日本語」のクラス見学を組み入れたことは、非常に高く評価できるであろう。

(3) 日本人学生、地域住民、そして大学の国際化

昨年同様、今年度も国際センターに登録している学生サポーターに呼び掛け、参加者とともに学ぶピア・ラーニングを行った。今回は参加者を小グループに分けそれぞれに日本人学生を配置し、キャンパスツアー、ひょうたん島クルーズ、県庁・県議会見学、副知事と議長との面談といった活動とともにを行った。大学内外での活動を一緒に行うことで、同じ年齢の学生たちが意見交換を行い、参加者は日本人を、日本人学生は異なる言語や文化を背景に持つ参加者を身近に知る機会となり、参加者・日本人学生双方に対する国際理解教育が行えたと考える。

徳島大学に在学している外国人留学生との交流を行う時間を設けることで、参加者がより徳島に親しみを感じ、将来の徳島大学への留学を現実のものとすることができたのではないかとと思われる。

茶華道体験などいくつかの活動にはとくしま異文化キャラバン隊の活動として市立高校生や徳島ユネスコ協会等の地域住民にも参加してもらい、参加者がより多彩な日本人との交流を行う機会を設けることができた。また、異文化・多言語の大勢の外国人学生に接することで、地域住民の外国人に対する理解が進んだと考えられる。

(4) 合同交流会を通じたネットワークの形成

交流会に関しては、昨年度に引き続き他部局のサマープログラムとの合同交流会を開催したが、今年度は阿波観光ホテルにて開催した。他のサマープログラムの参加者や日本人学生、地域住民、大学教員・職員と交流し、上板風神太鼓による和太鼓のパフォーマンスを体験する機会にもなったことから、参加者にとっては非常に良い交流の機会になったものとする。

サポーター制度

日本語教育を支援したり、国際交流のイベントを手伝ったり、外国人留学生と交流を図ったりするために、地域住民からなる「地域サポーター」と本学日本人学生からなる「学生サポーター」がある。サポーター希望者が登録申請をし、国際センター教員がイベントごとに参加者を募るようにしている。

サポーターは徳島大学で行われている日本語授業で、会話練習・タスク・動詞変換練習等の相手、プレゼンテーションの評価等を行ってもらう。また、サマースクールや外務省海外青年招聘事業 JENESYS2015 の本学来訪の際の交流などにも参加してもらっている。

今年度の学生サポーターの登録数は 56 名（2016 年 3 月現在）である。

実施月	内容	サポーター参加者数
2015 年 8 月	サマースクール 意見交換会・キャンパスツアーなど	地域・学生サポーター 40 名
11 月	「世界の料理を通して国際交流」	地域サポーター 6 名 学生サポーター 8 名
11 月	スタディー・ツアー 「外国人留学生と日本人学生・地域住民がともに学ぶ徳島の文化とビジネス」	地域サポーター 2 名 学生サポーター 9 名
2016 年 2 月	日本語研修コース修了式	地域サポーター 6 名 学生サポーター 4 名
3 月	JENESYS2015 シンガポール第 4 陣	学生サポーター 11 名

地域貢献

地域連携戦略室及び地域創生センターとの協力によって、様々な地域の国際化を図る取り組みを行っている。

地域貢献（多文化交流・地域共生）事業のポイント

- 異なる文化を持った人を受け入れ、共生を目指す地域社会を創造する
～お互いの共生・協労への理解～
- 地域に住む住民としての外国人と日本人の関係を作る
～出会いの場と共存を考える活動の提供～
- 徳島という地域で独自の共生を住民で考える
～将来の共生の担い手に学習課題としての提示～

1. 事業の目的と経過

国際センターは、地域に根ざした異文化理解を進める取り組みを行っている。センターが中心となって①留学生・在住外国人②日本人学生と教職員、そして③地域、の人と人をつなぐ様々な活動を計画・実施している。現在まさに、少子・高齢化といった社会情勢に応じて、徳島県にも外国人労働者が急激に増加する可能性がある。その際、互いに地域住民として共生・協労への理解を図る地域社会（コミュニティ）作りが重要な問題となる。この視点からセンターでは従来の学内の＜講座＞「国際交流の扉を拓く」や学外への「異文化理解出張講座」（教育機関・公民館の依頼による）を進めている。

また平成25年度より27年度の3年間は文部科学省委託の徳島大学留学生交流拠点事業「異文化キャラバン隊による国際化と新たな地域の創成」事業を展開してきた（詳細は本誌留学生拠点整備事業の項を参照の事）。



2. 地域サポーター制度

国際センターには、日本語教育を支援する徳島住民からなる「地域サポーター」と、徳島大学の日本人学生からなる「学生サポーター」の登録システムがある。センターが実施する日本語教育、①集中講習型の日本語研修コース、②外国人留学生・研究者・研究生とその家族対象の全学日本語コース、③学部留学生対象の全学共通教育での日本語・日本事情、④総合科学部の日本語教員養成に関わる科目、⑤地域対象公開講座があり、通年平均して約 30 クラスを開講している。各クラスの要請に応じ、地域または学生サポーターが授業に参加し、会話やスピーチ練習や動詞の変換練習など、またレベルに応じて調査相手・レポートやプレゼンテーションについてのコメント、タスクやフィールドトリップの同行などを行っている。これ以外にもサマースクールをはじめ、センターで行われる事業の支援へと活動を広げている。

3. 平成 27 年度の事業から

①公開講座等

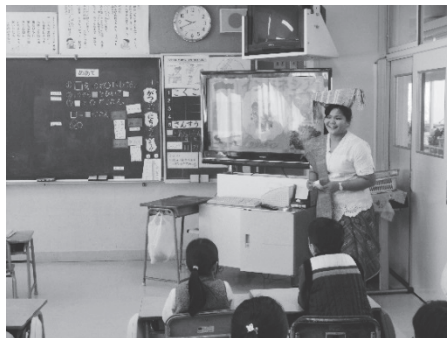
これまで開放実践センターにおいて「国際ボランティア入門ー徳島に住む外国人を支援するとは」から「外国人に日本語を教えるとは」に改め地域のボランティア日本語教員志望者の支援を行ってきた。さらに今年度は「国際交流ボランティア入門-多文化共生社会をめざして-」とし、以下の内容で実施した。

日	内容
5/23	コミュニケーション（非言語/異文化コミュニケーション）
5/30	日本語を学ぶ・教える（外国人はどのように日本語を学ぶのか）
6/13	美術鑑賞教育と言語 （徳島県立近代美術館にて留学生との活動）
6/20	多文化共生社会をめざして 1 （とくしま異文化キャラバン隊の活動）
7/11	多文化共生社会をめざして 2 （活動作りと報告会）

さらに今年度前期には共通教育共創型授業「国際交流の扉を拓く」を開講し、センター実施のサマースクールの活動の企画・運営をし、日本人学生と社会人受講者とが協力して実践的に国際交流を展開した。（本誌共通教育の項参照の事）

② 地域の学校との連携・支援

徳島地域の初等・中等教育機関との連携事業や国際理解教育・英語教育の支援を行っている。本学留学生と小・中・高校生との交流を通して、地域に住む児童・生徒にとっては多文化を学ぶことが、同時に外国人留学生は日本文化を体験的に学ぶことができている。また、国際センター教員は国際理解に関しての出張講義をはじめとし、徳島大学と高校との連携事業のコーディネータや、地域の日本語教育に関して県教育委員会の事業等で支援している。



③ 高大連携事業：出張講座、SGH支援

国際センターの教員が高校に出向き、国際交流や異文化理解に関する講義を行った。大学の地域への開放と地域社会の向上発展に貢献するという理念に基づいた高校との連携活動である。また、本学は徳島県立城東高校のスーパーグローバルハイスクール事業（SHG、文部科学省指定）を支援しており、講師派遣を行う際の窓口の役割を国際センターが担っている。国際センター教員を含む本学教員11名が「クエスト活動」と呼ばれる課題研究活動の指導を行った。

④ 多文化理解事業：「世界の料理を通して国際交流」

地域創生・国際交流会館（常三島キャンパス内に9月24日開所）にて、本学留学生と日本人学生・地域住民がそれぞれの国の料理を持参して紹介し、試食するイベントを11月に開催した。料理を通して世界の文化を理解するとともに、様々な文化背景を持つ人たちと交流する機会となった。インドネシアの留学生がハラールフードについて説明をし、異文化理解を深めることができた。



⑤ トビタテ留学！JAPAN「地域人材コース」での学生派遣

地域人材コース「徳島県地域グローバル人材育成事業」により、2名の学生をラオスとインドに約6か月間派遣した。ラオスでは「すだち加工食品の市場調査」の実践を、インドでは「伝統医学を取り入れた病気の予防・治療」について研究を行っている。

4. 成果と今後の展開

前述の文部科学省留学生交流拠点整備事業（平成 25-27 年度）として、「異文化キャラバン隊による国際化と新たな地域の創成—留学生との交流による多文化共生まちづくり—」のまとめを行った。詳細は<<http://www.isc.tokushima-u.ac.jpwo>>を参照されたい。

今後も常三島キャンパスを本拠地とし、地域のニーズに応えながら、大学と地域の国際化を進めていきたいと考える。

対日理解促進交流プログラム KAKEHASHI Project

「対日理解促進交流プログラム」は、外務省が行う事業で、(財)日本国際協力センター(JICE)が企画・実施している。このプログラムの目的は、(1) 日本とアジア大洋州、北米、欧州、中南米の各国・地域との間で、将来、各界で活躍が期待される優秀な人材を招へい・派遣し、我が国の政治、社会、歴史及び外交政策に関する理解促進を図るとともに、親日派・知日派を発掘することで、我が国の外交基盤を拡充する、(2) 被招へい者・被派遣者に、日本の



コロンビア大学視察 佐賀大と一緒に

外交姿勢、日本の魅力等を積極的に発信してもらい、国際社会における対日イメージ向上や日本への持続的な関心の増進に寄与することなどとなっており、これまでも多くの学生交流を生み出してきた。

この「対日理解促進交流プログラム」の中で、KAKEHASHI (かけはし) Project は特に北米地域を対象とした大学院生・大学生・高校生による交流事業で、2015 年度の取り組みに、徳島大学は四国で初めて選定され、学生を派遣することとなった。

今回の事業では本学からは 23 名の学生 (学部生 15 名、大学院生 8 名) が米国ニューヨークへ派遣された。また、本学に加え、佐賀大学、沖縄県立浦添高等学校、同県立普天間高等学校からも高校生・大学生・大学院生が派遣され、引率者 6 名を含む合計 75 名の派遣団となった。



LGCC での阿波踊り

ニューヨーク滞在中には、(1) 在ニューヨーク日本国総領事館訪問および国連本部ツアーへの参加、(2) La Guardia Community College (LGCC) との文化交流、(3) コロンビア大学キャンパスツアー、(4) Phillipsburg Manor ツアーと市内視察、(5) ニューヨーク太鼓愛好会との阿波踊りコラボ、(6) 成果報告会などの活動を行った。今回の訪問のメインであった

LGCC での文化交流では、佐賀大学、徳島大学の代表者による学校紹介および両大学による日本 (佐賀・徳島) 文化紹介が行われた。本学学生は、パワーポイントを用いて、アニメ、百人一首など日本文化や、藍染、スダチなど徳島の特産について紹介し、阿波踊りの伝統・歴史に関する説明を行った。その後、LGCC で日本語を勉強している学生を含む約 50 名の参加者を含め、全員で阿波踊りを楽しみ、お互いの文化交流を深め合った。

今後は、今回参加した本学学生が様々な国際交流イベントなどに積極的に参加し、将来は国際的な舞台上で活躍できる人材となってもらいたい。

教員出張（センター関連のみ）

金成海

- ・ 日本留学フェア
- ・ 日韓共同理工系学部留学生事業協議会
- ・ 大阪日本語教育センター進学説明会
- ・ 外国人留学生のための進学説明会
- ・ ダナン日本語学校訪問（ベトナム）

三隅友子

- ・ とくしま県民活動プラザ 理事及び運営委員
- ・ 徳島県立近代美術館協議会委員
- ・ 徳島大学附属病院 新人医師・看護師コミュニケーション講師（4月）
- ・ 徳島市立高校 多文化理解講座「多文化共生と私たち」（7月及び1月）
- ・ 北島町人権セミナー 講師（7月）
- ・ 徳島県自治研修センター「国際戦略化講座」 講師（11月）
- ・ その他：徳島大学留学生交流拠点整備事業「とくしま異文化キャラバン隊による国際化と新たな地域の創成」事業に関わる出張

坂田浩

- ・ 日本留学フェア（ベトナム）
- ・ 進学説明会（大阪）

橋本智

- ・ 地域小学校 国際理解教育支援（11月）
- ・ スタディツアー（徳島）（11月）